

全員が活躍できるボールゲーム  
～フルーツとりゲーム～

授業者 附属池田小学校 小野田薫

1. 対象 附属池田小学校第1学年南組(33名)

2. 単元目標

・知識及び技能に関して

ボールの軌道に入り、両手で捕らえることができる。

・思考力, 判断力, 表現力等に関して

自分が達成したい目標のために、できたことや気が付いたこと、工夫したことを言葉や動きで表現することができる。

・学びに向かう力, 人間性等に関して

ルールを守り、ゲームに参加する態度を養う。

3. 指導に当たって

(1) 単元を通して育む「グローバル市民」と学習との関連

選択項目→「主体的な人」これまでの経験や学んだことから目標を持ち、その達成に向けて進んで取り組むことができる。

本単元ではボールを扱う。児童はこれまでにボールに慣れ親しんできているが、その扱い方の個人差は大きい。ボール遊びを楽しむためには捕球動作を身につけることが第一歩であると考え。そこで、これまでの児童のボール遊びの経験から、1人1人が自分に合った目標を持ち、その達成に向けて取り組むことでボールに親しみ、ボールを扱うのが楽しいと感じられるようにしたい。

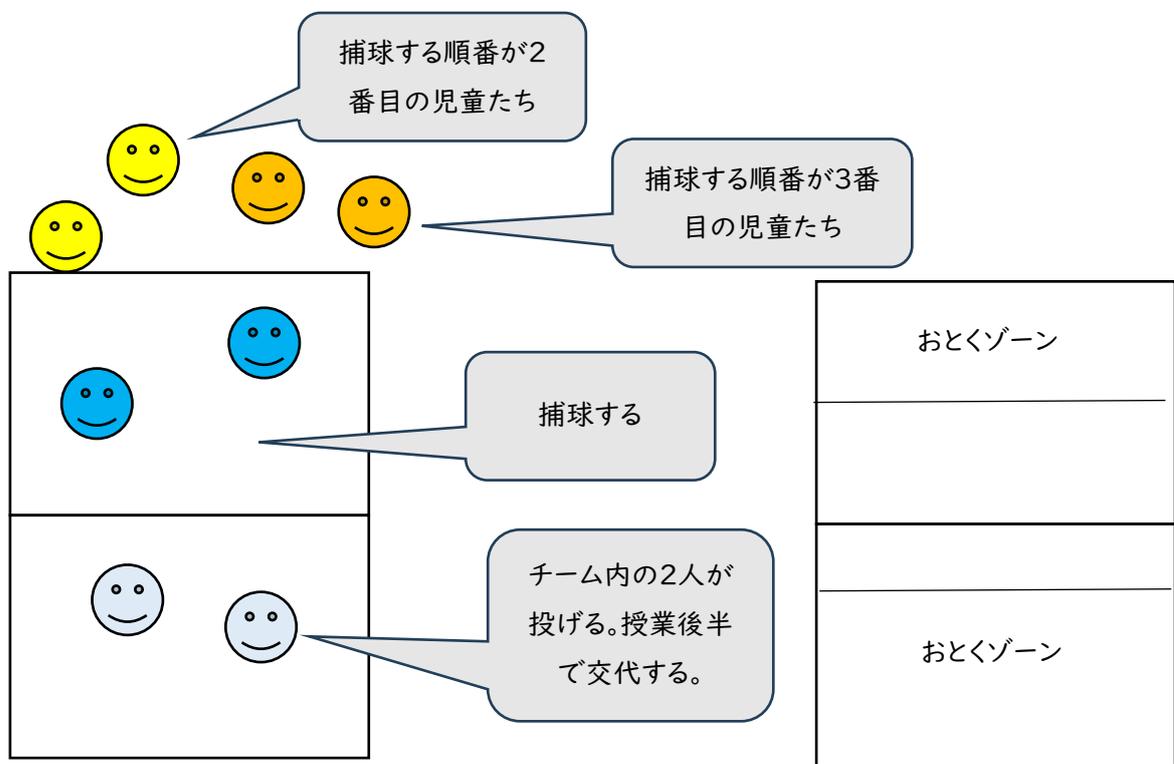
(2) 教材観

ボール運動遊びでは投げる動作に着目しがちだが、捕球できなければならない。よって捕球動作に絞って教材を設定した。それに関連して投球の知識・技能を身につけることも視野に入れる。

今回の教材では、スポンジボールを使用する。ボール運動遊びに苦手意識のある児童は、あたったら痛い、怖いといった恐怖心があると考えられる。そこであたって痛くないという安心感を持たせ、低学年の児童が捕らえやすい大きさのボールを使用する。

捕球動作に絞るために、対戦ではなく協力関係でゲームを進める。8人チームのチーム内で投球・捕球を行う。

単元の途中から「おとくゾーン」を設定し、投げられたボールをコートの後方で捕球できた場合、得点が2点になる追加ルールを設定する。



### (3) 児童観

本学級の児童は体育に対して肯定的なイメージを持っている。学習に対して前向きで、その時間の学習でうまくいかなかったことがあれば、次の時間に頑張りたいことを決めることができる。

ドッチボールに日常的に親しむ児童は一定数いるが、児童の中には難解なルールやボール操作は苦手意識がある児童もいる。ボールが苦手な児童も楽しみながら捕球動作を身につけられるようにしたい。

これまでの学習で行った鬼遊びでは、簡単なボール操作として玉入れの玉を「持ち運ぶ」動きを取り入れ、小集団同士で攻めと守りの動きがあった。児童は学習を通して、攻守に分かれるゲームの特性を理解し、作戦を立てて振り返ることができた。チームでの作戦会議で、「自分がおとりになってほかの二人にたからを運んでもらおう」と話し合っていたが、途中で作戦が立ち行かなくなり、考えたことが行動ではうまくいかないという場面が見られた。低学年の発達段階をふまえて、チームで協力することに重点を置くのではなく、個々の活動に重点を置き、それぞれの合計をチーム、ととらえるほうが良いと考察する。

今回のフルーツとりゲームでは、全員がボールをキャッチできる機会を持ち、その合計をチームの得点として設定する。ボールに対する恐怖心を低学年のうちに和らげるためにも、ボールを捕らえることができるようにしたい。

### (4) 指導観

捕球側は投球側が投げたボールを順番に捕らえていき、捕らえたボールはかごに入れ、得点を視覚化する。捕球側はボールの軌道に入り、落下地点に入って両手で捕らえるよう指導する。その際、うまく得点できなかった場合に自分の立ち位置やボールの軌道・落下地点に入ることで得点できるということに気付かせたい。

スポンジボールに親しむために、単元の2回目までは一人一球でボールを操作したり、二人でパスをしたりと簡単なボール操作を設定する。ボール操作を通してボールへの恐怖心をやわらげ、友達と一緒にボールを操作する楽しさに気付かせたい。

1チーム8人をフルーツなかまとして、そのうち2人をフルーツメイトとする。フルーツメイトはそれぞれのその時間のめあてやふりかえりを共有するように指導する。「みんなとやったらできたよ」「みんなと一緒にやるのが楽しい」という振り返りがこれまでの体育でも出ていたが、3人以上で合意形成を図るのは発達段階的にも難しい。そこで、単元を通して自分たちの工夫を話し合っで決めるのは2人で行う。

#### 4. 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
ボールの軌道に入ることができる。 ボールを両手で抱えて捕らえることができる。	自分が達成したい目標のために、できたことや気が付いたこと、工夫したことを友達に伝えることができる。	ルールを守り、ゲームに意欲的に取り組もうとしている。

#### 5. 単元の指導計画(全7時間)

時間	学習内容	主な評価規準	評価の観点			評価方法
			知技	思考	態度	
1・2	フルーツはこびにちょうせんだ!	さまざまな体の使い方 で、ボールを転がしたり 投げたり受け止めたりし ている。	●		●	観察 ふりかえり
3	たくさんのフルーツをとろう。	ボール運動遊びで自分 ができるようになりたいこ とをめあてに設定するこ とができる。		●	●	観察 ふりかえり
4	たくさんのフルーツをとろう。	確実に捕球するために、 どうすればよいか考え、 自分なりに工夫すること ができる。	○			観察 ふりかえり
5【本 時】	たくさんのフルーツをとるにはど うすればよいか。	協力して捕球し、場面に 応じた捕球ができる。		○		観察 ふりかえり
6	フルーツとりめいじんをみつけよ う。	友達の捕球動作を見て、 よいところを見つけられ る。		○		観察 ふりかえり
7	フルーツとりめいじんしゅうだん になろう。	ボール運動遊びにルー ールを守って楽しんで取り 組める。			○	観察 ふりかえり

●・・・形成的評価(指導に活かす評価)    ○・・・総括的評価(記録に残す評価)

#### 6. 本時の展開

##### (1) 本時の目標

フルーツをたくさんとろう。

##### (2) 本時の評価規準

自分が達成したい目標のために、できたことや気が付いたこと、工夫したことを言葉や動きで表現することができる。

### (3) 本時の学習とグローバル市民コモン・ルーブリックとの関連

①項目：主体的な人

②内容：これまでの経験や学んだこと、試みの視点などから目標を持ち、その達成に向けて自主的に粘り強く取り組むことができる。

### (4) 展開

学習過程	学習活動および内容	指導上の留意点	評価の観点・方法
導入 5分	○めあてを確認する。		
	フルーツをたくさんとろう。		
展開 35分	○めいじんわざについて考える。	「おとくゾーン」ができたことを伝える。 個人の課題としてめいじんわざを設定させる。「落下地点に入る」「ボールをよく見る」など、これまでの学習から目標を持たせる。	
	○フルーツメイトでめあてを確認する。	それぞれのめあてを設定させる。	
	○準備運動	捕球に焦点を当てて、準備運動をさせる。	
	○フルーツとり1回目	おとくゾーンで捕球したら2点を獲得できることを伝える。おとくゾーンを活用するとき、しないときの決め方をフルーツメイトと相談させる。	
	○全体で交流する。	おとくゾーンで捕球したら2点とれるが、確実に捕球するなら近くの方が良い、など場面に応じた捕球動作の工夫を交流させる。	(思) 工夫したこと、工夫のアイデアを相手に伝えることができる。
	○フルーツとり2回目	全体で交流した工夫をもとに、ゲームができるようにする。	
	○全体で交流する。	確実に捕球するために、場面に応じて行動を変容させたり、工夫をしたりと、1回目と比べて考えを深められたか見取る。	

まとめ	○ふりかえり	フルーツメイトとふりかえり、自分たちのめあてが達成できたのか確認させる。	
5分	○ふりかえりを全体で交流する。		

(5) 準備物

スポンジボール・ゼッケン・コーン・バー・赤玉・かご

7. 資料:池田地区「グローバル市民」コモンルーブリック

項目	高等学校	中学校	小学校	
			高学年	低学年
主体的な人	これまでの経験や学んだこと、 <b>新たな試みの視点</b> などから目標を持ち、その達成に向けて <b>自主的に粘り強く、創造的に</b> 取り組むことができる。	これまでの経験や学んだこと、 <b>試みの視点</b> などから目標を持ち、その達成に向けて <b>自主的に粘り強く</b> 取り組むことができる。	これまでの経験や学んだこと、 <b>試みの視点</b> などから目標を持ち、その達成に向けて <b>自主的に</b> 取り組むことができる。	これまでの経験や学んだことから目標を持ち、その達成に向けて <b>進んで</b> 取り組むことができる。
つながりのある人	これまでの経験や知識を関連づけて <b>創造的に</b> 物事を考え、 <b>周りの人たちや異なる文化圏の人たちとの協働を構想・実践</b> することができる。	これまでの経験や知識を関連づけて物事を考え、 <b>地域社会の人たちとの協働を構想・実践</b> することができる。	これまでの経験や知識を関連づけて物事を考え、 <b>学校の人たちと協力して</b> 取り組むことができる。	これまでの経験や知識をもとに物事を考え、 <b>学級の人たちと協力して</b> 取り組むことができる。
探究力のある人	自らの問題として、 <b>身近なコミュニティや世界の出来事</b> から課題を見出し、その解決に向けて取り組み、 <b>振り返りながら、創造的に</b> 追究することができる。	自らの問題として、 <b>身近なコミュニティ</b> から課題を見出し、その解決に向けて取り組み、 <b>振り返りながら</b> 追究することができる。	自らの問題として、 <b>身の回り</b> から課題を見出し、その解決に向けて取り組み、 <b>振り返り</b> することができる。	自らの問題として、 <b>身の回り</b> の課題を見出し、その解決に向けて取り組み、 <b>振り返り</b> することができる。
寛容な人	他者の意見や考え方に対して <b>共感と傾聴の姿勢</b> で接し、 <b>多様性を尊重しながら相互理解</b> を深めることができる。	他者の意見や考えに対して <b>共感の姿勢</b> で接し、 <b>多様性を受け入れ相互理解</b> を進めることができる。	他者の意見や考えに対して <b>共感の姿勢</b> で接し、 <b>相互理解</b> を進めることができる。	他者の意見や考えに対して <b>共感の姿勢</b> で接することができる。

これまでの経験や学んだことから**目標**を持ち、その達成に向けて**進んで**取り組むことができる。